

**授業概要**

卒業論文の前段階として、専門演習では幼児教育分野におけるテーマを自由に選択し、共通性の高いテーマを選択した複数人で実際に協同して行う。1.文献検索等の情報収集方法、2.保育・幼児教育分野に適した社会調査法、3.学術論文および報告書の作成方法、4.プレゼンテーションの方法等から、論文作成に必要な方法論を体系的に学んで行く。また、その過程における文献レビューやディスカッション等を通じて、興味を持っている分野について科学的な視点で改めて向き合うことで、より具体的なテーマを発見し、卒業論文演習へ繋げていくことを目的とする。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回 ～ 第19回	定性的調査の講義と演習：グループインタビューをしてみよう！
第2回 ～ 第3回	興味がある分野やテーマの確認 (現状で把握している情報に対する考察)	第20回 ～ 第21回	データ解析の方法(文章のまとめ方、グラフや表の書き方)
第4回 ～ 第5回	文献の検索方法および読み方	第22回 ～ 第24回	全体研究報告書の作成とプレゼンテーション
第6回 ～ 第7回	定量的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第25回 ～ 第27回	卒業論文に向けた研究計画の立案
第8回 ～ 第9回	定性的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第28回 ～ 第29回	研究計画の発表
第10回 ～ 第14回	定量的調査の講義と演習：アンケートをしてみよう！	第30回	秋期まとめ
第15回	春期まとめ		

**到達目標**

幼児教育分野における科学的なリテラシーを涵養しながら、卒業論文にむけたテーマを発見し、研究計画を立案する。

**履修上の注意**

- ・ 討論・演習において主体的に取り組める学生の履修を望む。
- ・ 原則として毎回出席すること。遅刻・欠席の場合は都度対処するので必ず連絡すること。
- ・ 授業内における一人ひとりの発言は貴重な情報である。どの様な内容であっても互いに否定的に捉えないことをルールとする。
- ・ 文献レビューの準備等、授業外での課題にも積極的に取り組むこと。

**予習・復習**

事業時間外での課題を複数回課す。

**評価方法**

討論における積極性（20%）、文献レビューや研究計画等の課題（80%）

**テキスト**

特に指定しない。必要となる文献等については適宜授業内で告知する。

**授業概要**

本ゼミナールでは、「子どもの健康」をキーワードとして、卒業論文を書くための研究を進めていきます。また、同時に保育に関する基本的な技術、能力を高め、実習、就職へとつなげていくことのできる能力を身につけていくことを目的とした演習を展開していく予定です。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	レポート①～作成	第 17 回	レポート③～作成
第 3 回	レポート①～発表	第 18 回	レポート③～発表
第 4 回	レポート①～発表	第 19 回	レポート③～発表
第 5 回	レポート②～作成	第 20 回	卒業論文の進め方
第 6 回	レポート②～発表	第 21 回	卒業論文の研究テーマ
第 7 回	レポート②～発表	第 22 回	文献の探し方①
第 8 回	保育実践研究①	第 23 回	文献の探し方②
第 9 回	保育実践研究②	第 24 回	卒論研究①
第 10 回	保育実践研究③	第 25 回	卒論研究②
第 11 回	保育実践研究④	第 26 回	卒論研究③
第 12 回	保育実践研究⑤	第 27 回	卒論研究④
第 13 回	保育実践研究⑥	第 28 回	卒論研究⑤
第 14 回	保育実践研究⑦	第 29 回	研究結果発表
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

**到達目標**

- ・グループで協力しながら、課題に取り組むことができる。
- ・卒業論文のテーマを決めることができる。

**履修上の注意**

グループ学習、発表などがあるので、協調性が必要となります。

発表のための練習等により、時間外での活動が必要になってくる可能性があります。その際にも、「協調性を最重視し、アルバイトなど自己都合をできる限り変更することができる学生の履修を望みます。

- ① 卒業論文の研究テーマは、私の研究分野（体育学—発育発達）を中心とした内容に限られます。ある程度、卒論テーマをイメージした上で、ゼミを選択するようにしてください。
- ② パソコンを使った授業を行います。

基本的に授業内で課題を指示します。授業内で終わらなかった課題については、復習をかねて授業時間外で学習してもらいます。

※コロナウイルス感染症の流行状況によりますが、ゼミ合宿や保育所での学外研修を行うことがあります。

実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。

また、費用がかかりますので、準備をしてください。

**予習・復習**

発表のための準備等、授業時間外での自主学習が必要となる。

**評価方法**

発表内容（80%）と意欲的に学ぼうとする態度（20%）を総合的に評価します。

**テキスト**

特に、指定しない。

**授業概要**

教育の現場では、植物園や動物園，科学館などの社会教育施設の利用を伴う活動が近年多く見られる。その際、教師はこれらの施設の学習プログラムを単にそのまま利用するのではなく、十分な事前学習と周到な計画・立案を行った上で依頼する必要がある。本演習の前半は、こうした観点から、県内および近隣の社会教育施設等を取り上げ、理科教育・環境教育に関連した学習プログラムを実際に作成・提案することを通して、将来的な各種教育現場での実践力を身につけることを目標とする。

後半は、理科教育・環境教育に関する最新の情報を得る目的から、学会誌や専門書の輪読，科学実験を行う。これらを通して、さまざまな理科教育・環境教育分野の潮流と諸問題について検討を行い、卒業論文の土台づくりとしたい。

**授業計画**

第 1 回	前半オリエンテーション	第 16 回	後半オリエンテーション
第 2 回	環境と人間	第 17 回	理科教育・環境教育論文とは，発表の順番等の決定
第 3 回	理科教育・環境教育とは	第 18 回	発表の技法，資料の作り方
第 4 回	環境保全・環境創造と理科教育・環境教育	第 19 回～ 第 29 回	論文紹介・解説のプレゼンテーションと討議，卒論にむけて
第 5 回～ 第 6 回	学校教育現場における環境教育 ※学外活動		
第 7 回～ 第 8 回	社会教育施設の見学のための準備，計画		
第 9 回～ 第 10 回	社会教育施設の見学，資料収集 ※学外活動		
第 11 回～ 第 12 回	社会教育施設を利用した学習プログラムの作成		
第 13 回～ 第 14 回	学習プログラム提案のプレゼンテーションと討議		
第 15 回	前半まとめ	第 30 回	

**到達目標**

- ・社会教育施設等を用いた理科教育・環境教育に関連する学習プログラムの作成・提案を行うことができる。
- ・学術論文の内容や構成について要旨を作成して説明することができる。
- ・卒業論文のテーマの方向性を決定できる。

**履修上の注意**

本演習は、4 年生の卒業論文につながるものであるため、卒業論文を理科や環境教育に係わる内容で作成しようという学生であること。

授業を土日に振り替えて、社会教育施設や小中学校の授業観察に行く予定である。したがって、指定した校外学習日に必ず出席すること。

班ごとの活動や個人発表が多くなるので、欠席しないことが前提になる。遅刻 3 回で欠席 1 回として扱う。また、20 分以上の遅刻は欠席として扱う。

**予習復習**

本演習の単位修得には、プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また、卒論に向けた活動ともなるので、授業内で得た知識を復習することも必要となる。

**評価方法**

授業中の態度や参加状況（30%）、プレゼンテーションへの取り組みと発表内容（40%）、個人レポートなどの提出物（30%）によって総合的に判断する。

なお、自身のプレゼンテーション、個人レポートなどの提出物のそれぞれで、配点の 50%を下回ったものがある場合は総合評価の対象とはしないので十分注意すること。

**テキスト**

適宜印刷資料を配付する。

**授業概要**

子どもの特徴に合わせた柔軟な支援や発達援助の知識・技能を身に付けるため、「子どもの行動に影響する心理特性とそれに合わせた関わり」「障害や虐待などの事情により特別な配慮が必要な子どもの理解と支援」などを中心としつつ各自の考えていきたいテーマを検討していきます。専門演習では、ゼミのテーマについてディカッション等により学習しながら、興味のあるテーマを探っていきます。また、卒業論文作成に必要な技能（情報収集の方法、データの獲得方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など）の獲得を目指します。過去の卒業論文では、次のようなテーマがありました。

【テーマの例】

- ・発達障害児・者との接触経験の有無が発達障害のイメージにどのように関連しているか
- ・子どものヒヤリハット場面における大学生の重大さの認識と対策について
- ・大学生における保育者効力感が子どものやる気を促す関わり方に及ぼす影響
- ・自己主張・自己抑制と幼児期の癩癩の関係
- ・保育園・幼稚園での気になる子／障害児への対応について

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	春期の振り返り
第 2 回	研究の進め方	第 17 回	研究法の理解（質問紙など）①
第 3 回	子どもの心理発達を理解①	第 18 回	研究法の理解（文献調査など）②
第 4 回	子どもの心理発達を理解②	第 19 回	研究法の理解（その他）③
第 5 回	障害等がある子ども①	第 20 回	研究テーマの検討①
第 6 回	障害等がある子ども②	第 21 回	研究テーマの検討②
第 7 回	配慮が必要な他の子ども①	第 22 回	文献収集と情報整理①
第 8 回	配慮が必要な他の子ども②	第 23 回	文献収集と情報整理②
第 9 回	学習した内容のまとめ①	第 24 回	文献収集と情報整理③
第 10 回	学習した内容のまとめ②	第 25 回	研究方法の検討①
第 11 回	テーマ探し、文献収集①	第 26 回	研究方法の検討②
第 12 回	テーマ探し、文献収集②	第 27 回	研究方法の検討③
第 13 回	ディスカッション①	第 28 回	卒業研究の構想発表①
第 14 回	ディスカッション②	第 29 回	卒業研究の構想発表②
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

**到達目標**

子どもの心理特性や、障害や虐待などの事情により特別な配慮が必要な子どもの特性を踏まえた保育・教育を考えられる。人の学習や行動について科学的に考える視点を持てる。

**履修上の注意**

- ・協同学習やディスカッションなどを行うため、他者との関係を良好にするよう努めること。
- ・資料作成にはパソコンを使用する。オフィス系ソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）、インターネット検索などのスキルを身に付けるよう努めること。
- ・遅刻3回で欠席1回として扱う。また、遅刻・欠席の場合は連絡を入れること。
- ・施設見学などを行う場合がある。

**予習・復習**

調査や発表準備・練習のために授業時間外で自主学習が必要である。

**評価方法**

授業中の態度（20%）、研究発表への取り組み（40%）、レポートなどの提出物（40%）によって総合的に判断する。

**テキスト**

適宜資料を配布する。

**授業概要**

初等教育・幼児教育・保育において必ず身につけるべき童話・昔話の物語（絵本）についての卒業論文を書く指導を行います。また、理解を助けるために様々な書籍を読み、研究のための教養を養う指導を行います。授業は**研究発表**を中心に行い、それをもとに意見交換・討論・調査などを行い、これに基づいて指導します。図書館・博物館などの**外部施設見学**も行います。卒業論文を書く力を養うために、**論作文の指導**を行い、早いうちから各自に課題を出します。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	第二次卒論仮テーマの決定
第 2 回	第一次仮卒論テーマの決定	第 17 回	論作文指導4 章分け
第 3 回	論作文指導1 モチーフ	第 18 回	論作文指導5 概要
第 4 回	論作文指導2 例示	第 19 回	論作文指導6 具体性
第 5 回	論作文指導3 展開	第 20 回	研究の進め方1 まとめ方
第 6 回	研究の進め方1 文献	第 21 回	研究の進め方2 考察
第 7 回	研究の進め方2 ネット文献	第 22 回	研究の進め方3 比較
第 8 回	研究の進め方3 整理法	第 23 回	研究発表5（日本の童話）
第 9 回	研究発表1（世界の童話）	第 24 回	研究発表6（日本の昔話）
第 10 回	研究発表2（世界の昔話）	第 25 回	研究発表7（日本の伝記）
第 11 回	研究発表3（世界の伝記）	第 26 回	研究発表8（日本の実話）
第 12 回	研究発表4（世界の実話）	第 27 回	研究発表9（絵本）
第 13 回	施設見学1（国際子ども図書館）	第 28 回	施設見学4（東京子ども図書館）
第 14 回	施設見学2（相田みつを美術館）	第 29 回	施設見学5（アンデルセン公園）
第 15 回	施設見学3（ちひろ美術館）	第 30 回	施設見学6（絵本展）

**到達目標**

（春期）第一次仮卒業論文テーマによる論作文指導と研究調査、発表の練習をへて、秋期授業開始時に自分に適し、よりしぼった第二次仮卒論テーマを決定する力をつけます。  
 （秋期）第二次仮卒業論文テーマによる論作文指導と研究調査、発表の練習をへて、4年生卒業論文授業開始時に、**自身にとって最適で意欲がわく卒業論文テーマ**が決定できる力をつけます。  
 同時に、**論作文の指導を通して、文章力・国語力の養成**も行います。

**履修上の注意**

**授業態度、授業参加度**を重視します。授業中に、**研究発表**を行い、その内容も評価に含めます。提出物がある時は、提出物も評価に含めます。童話・昔話（絵本）を中心に多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。  
 <発表例>ある童話・昔話について、どのような作品（ストーリー等）か、発表者はどのように考えるか、これまでどのような評価を得てきたか、教育の現場ではどのように読まれてきたか、どのように絵本化されているか、最もすぐれた絵本はどれか、子どもはどのように受容するか、などです。  
 これ以外に、**卒論準備と文章力・国語力養成のために、各人に適した課題**を出します。

**予習・復習**

**研究発表**を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、**事前の自主学習**が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための**復習**も必要となります。

**評価方法**

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）  
 研究発表 40% レポート 40% 受講態度 20%

**テキスト**

教材・参考書等は、授業中に指示します。

**授業概要**

この演習は「卒業研究」の前段階として、造形表現の発達段階と特性を理解するとともに、子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目指す。また保育・教育の造形指導者として、子どもの要求にふさわしい援助を与えるための指導の研究と、豊かな表現を促すための材料・用具等の取り扱いについて、製作体験を通して学習していく。

**授業計画**

第 1 回	材料経験の内容と方法 ①平面表現(素描, 水彩, 絵本づくり)	第 16 回	創造力を育てる遊具
第 2 回		第 17 回	・仕掛けのあるおもちゃ(木のおもちゃ, 玩具など)
第 3 回		第 18 回	・大型遊具のデザイン
第 4 回	②立体表現(紙工作, 粘土型取り運動会メダルなど)	第 19 回	マルチメディアを用いた映像表現 (クレイアニメ, ライトファンタジー)
第 5 回		第 20 回	
第 6 回	学外活動—美術館訪問と鑑賞教育—	第 21 回	海外の子どもの造形表現(欧州南米)と鑑賞教育(障がい者アート他)
第 7 回	材料体験の内容と方法	第 22 回	
第 8 回	③伝承の遊び(飛び出すしかけ絵本, 折り紙, お便りカード)	第 23 回	学外活動: 親子を対象とした造形ワークショップ(造形遊びの発展)
第 9 回		第 24 回	
第 10 回	幼・保・小学校の連携と総合的な活動 (紙芝居, パネルシアター, ペープサート, 影絵, 障がい者のアートなど)	第 25 回	研究課題: 模擬保育・指導計画の設定→製作活動の導入→展開→まとめ, 評価と反省会
第 11 回		第 26 回	
第 12 回	乳幼児~小学校児童画の見方 —発達段階による様々な表現—	第 27 回	
第 13 回		第 28 回	
第 14 回	課題発表	第 29 回	
第 15 回		第 30 回	

※学芸員による学校鑑賞教育を聴講。公共施設にて親子を対象としたワークショップの学外活動を計画中。

**到達目標**

- ・材料をもとにした造形活動を楽しみ豊かな発想をするなどして、自らの造形表現を高める。
- ・教育・保育者としての造形活動を指導・支援する為の知識や、基礎となる技能を習得する。
- ・研究テーマを設定して、継続的(次年度4年次)に研究計画を遂行する能力を養う。

**履修上の注意**

課題に対して主体的な取り組みを心掛け、地道な努力の積み重ねを目指す。手先の器用さよりもむしろ時間を掛けた丁寧さと根気強さが求められる。教員・学生同士との対話的で深い学びを目指す。

**予習・復習**

造形の実践力を高めるために、公立美術館・公共施設等を利用したワークショップの企画参加を検討中。ファシリテーター(促進者)として子どもとの関わりを持つ場面に、積極的に参加することを望む。

**評価方法**

課題に取り組む態度、製作した作品の質と量(50%)、ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動(30%)、製作レポートの内容(20%)により評価する。

**テキスト**

- ・教科書名: 保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」
- ・著者名: 梅澤実・森本昭宏編著
- ・出版社名: 創成社
- ・出版年(ISBN): 2020年

**授業概要**

本演習は音楽全般に関するゼミです。音楽は得意ではないけれどもパソコンは扱える人、わらべうたに興味のある人、楽譜の読み方・書き方をマスターしたい人にもお勧めします。共同研究と個人研究を複合的に行うというスタイルを採り、それぞれテーマを設定して追究していきます。テーマ設定は「大きな問い」がなければできません。しかし「問い」はある程度勉強したり情報を集めたりしなければ生まれません。

子どもの音楽的発達の理解、保育者・教員の音楽面での対応・指導のしかたへの理解を深めていく一方、「学びとは何か」、「理解するとは何か」を追究します。ICTのスキルを高め、パソコンやタブレットで編曲・作曲したり楽譜を作成したりします。また、GIGAスクール政策で普及し始めた学校でのタブレット活用による音楽づくりや音楽学習について調べ、そのための教材づくりを行います。大学祭では、共同研究として追究するわらべうたを用いた子どものための音楽ワークショップと、個人で追究した教材や音楽作品の発表を行います。

**授業計画**

第 1 回	共同研究・個人研究のテーマ①	第 16 回	音楽ワークショップ①、教材・作品①
第 2 回	共同研究・個人研究のテーマ②	第 17 回	音楽ワークショップ②、教材・作品②
第 3 回	音楽学習の基礎・わらべうた①	第 18 回	音楽ワークショップ③、教材・作品③
第 4 回	音楽学習の基礎・わらべうた②	第 19 回	音楽ワークショップ④、教材・作品④
第 5 回	音楽学習の基礎・わらべうた③	第 20 回	「学び」研究について①
第 6 回	音楽学習の基礎・わらべうた④	第 21 回	「学び」研究について②
第 7 回	音楽学習の発展・リズムと音階①	第 22 回	音楽の教育方法理論①
第 8 回	音楽学習の発展・リズムと音階②	第 23 回	音楽の教育方法理論②
第 9 回	音楽学習の発展・リズムと音階③	第 24 回	音楽の教育方法理論③
第 10 回	音楽学習の発展・リズムと音階④	第 25 回	研究テーマ発表のしかた
第 11 回	音楽学習の応用・読譜と記譜①	第 26 回	文献・資料の探し方、読み方の基礎
第 12 回	音楽学習の応用・読譜と記譜②	第 27 回	論文・レポートの構成の基礎
第 13 回	音楽学習の応用・読譜と記譜③	第 28 回	引用のしかたの基礎
第 14 回	音楽学習の応用・読譜と記譜④	第 29 回	筆者の考えの解釈の基礎
第 15 回	学習成果発表	第 30 回	研究テーマ発表

**到達目標**

①わらべうた、リズムと音階、読譜と記譜について主体的に実践することができる。②音楽ワークショップに協働的に参画することができる。③音楽教材・作品をつくり発表できる。④研究分野について理解し、適切にテーマを設定することができる。

**履修上の注意**

・「読む」（音楽・文章）ためのスキルを高める必要があり、パソコン、タブレット、スマホを上手に使うことで検索すること、ICTを使って情報を上手に整理すること、情報を加工すること（情報リテラシー）が必要です。中でもパソコンを手際よく使えることが必要です。社会に出てからはより一層必要になりますので、ぜひ使い慣れましょう。

**予習・復習**

・前半の 15 回までは、パソコン等に習熟し、音楽スキルの練習に時間を割くことになります。後半の 15 回は重要な「研究テーマ設定」のために、①指導スキルを身に付けること、②学んだことを整理すること、③集めた情報を整理すること、④発表のためのプレゼン資料を作成することに時間を割くことになります。

**評価方法**

- ・わらべうた、リズムと音階、読譜と記譜のスキル、情報リテラシーの向上の度合い：30%
- ・音楽教材・作品の発表への努力と内容：20%
- ・協働的に参画する姿勢：20%
- ・研究テーマの内容と発表のしかた：30%

**テキスト**

- ・小学校音楽教科書『小学生の音楽 1～6』教育芸術社
- ・コダーイ芸術教育研究所著作『おんがく 1』『おんがく 2』『おんがく 3』全音楽譜出版社

**授業概要**

社会学、ジェンダー学の視点から、子どもを取りまく社会の状況について考え、議論を重ねていきます。保育、教育、福祉といったみなさんが目指す「子どもの現場」には、多くの家族問題、社会問題が生じています。支援者となるべきみなさんは、学生時代のいまこそ、それらの問題について真剣に考え、学ぶ必要があると考えます。さらに、自身が真剣に取り組めるテーマに出会い、卒論を作成する経験は、みなさんの「力」と「自信」につながるはずで、そのための2年間は、とても貴重な時間です。

春期は文献を講読し、資料を調べ、仲間と議論します。今年度は昨年度に引き続き、木村草太編『子どもの人権をまもるために』（2018年、晶文社）という本を取り上げました。秋期は春期の作業をふまえて、それぞれが自分の卒論テーマを模索し決定し、研究計画書を作成します。卒論ゼミで現4年生が取り組んでいるテーマは以下の通りです。「データから考えるジェンダーギャップ」「不登校を考える」「父子家庭が抱える問題」「外国籍の親をもつ子どもの保育」「虐待と親子関係」「絵本が子どもに与える影響」「子どもの運動能力は低下しているのか」

なお、登録希望者はゼミ説明会への参加が必要です。必ず参加してください。説明会の日程が合わない場合はご相談ください。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方	第16回	研究の進め方
第2回	論文を執筆するための心得	第17回	問題関心のありか
第3回	研究を進めるための心得	第18回	研究課題の検討
第4回	記事検索と資料の調べ方	第19回	先行研究の調べ方
第5回	文献の読み解き方と報告のやり方	第20回	先行調査の調べ方
第6回	文献講読と議論1	第21回	参考文献リストの作成
第7回	文献講読と議論2	第22回	研究方法の検討
第8回	文献講読と議論3	第23回	分析方法の検討
第9回	文献講読と議論4	第24回	研究計画の報告1
第10回	文献講読と議論5	第25回	研究計画の報告2
第11回	文献講読と議論6	第26回	研究計画の報告3
第12回	グループディスカッション	第27回	研究計画の報告4
第13回	関心あるテーマへのアプローチ1	第28回	研究計画の報告5
第14回	関心あるテーマへのアプローチ2	第29回	全体討論
第15回	後期に向けて	第30回	4年次の卒論演習に向けて

**到達目標**

- 文献を読み解く力を身につける。
- 研究をすすめていくために必要な知識や態度、マナーやルールを身につける。
- 仲間と議論することで自らの考えを鍛える。
- 議論をとおして相手の考えを理解する。
- 自らの問題関心を深め、卒業論文のテーマを決める。

**履修上の注意**

- 文献を読み解き、資料を調べ、自らの「問い」を立てる、という作業に真剣に取り組む態度が必要となる。
- 報告や課題に積極的に取り組む態度が求められる。
- 議論には活発に参加することが求められる。
- 仲間の意見を尊重し、自分の意見もしっかりと伝えることができるコミュニケーション能力が求められる。

**評価方法**

ゼミでの報告態度と報告内容（40%）、議論への参加態度（30%）、課題レポート（30%）で、総合的に判断する。

**テキスト**

春期にとりあげる文献については、ゼミ生と相談のうえ、初回のゼミで決める。

**授業概要**

「子どもの貧困」「ひとり親家庭」「児童虐待」「ヤングケアラー」など、子どもや若い世代におきている社会福祉にかかわる問題や、児童養護施設・障害者施設での生活や利用児・者へのケア・対応に着目し、どうすれば解決していけるか、そしてどうかかわっていけばについて考え、興味関心や問題意識を高めていく。

春期は上記問題や子育て支援にかかわる問題・テーマを各自で選び、文献購読・意見交換、発表を行う。

秋期では卒業論文の執筆にむけて、研究テーマの設定、研究テーマに関連する文献・資料を収集する、先行研究に目を通す、研究計画の作成といったプロセスに取り組むとともに、研究方法についても学んでいくこととする。また、児童養護施設あるいは子ども食堂といった、支援の現場への見学も実施したいと考えている。

キーワード：子どもの貧困、ひとり親家庭、児童養護施設、虐待児のケア・対応、子ども食堂、子育て支援

**授業計画**

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	文献購読・意見交換	第 17 回	研究テーマについて
第 3 回	文献購読・意見交換	第 18 回	文献・資料収集
第 4 回	文献購読・意見交換	第 19 回	文献・資料収集
第 5 回	文献購読・意見交換	第 20 回	研究方法について①アンケート
第 6 回	文献購読・意見交換	第 21 回	研究方法について②インタビュー
第 7 回	文献購読・意見交換	第 22 回	研究方法について③観察
第 8 回	文献購読・意見交換	第 23 回	先行研究をまとめる
第 9 回	文献購読・意見交換	第 24 回	先行研究をまとめる
第 10 回	文献購読・意見交換	第 25 回	研究計画を作成する
第 11 回	文献購読・意見交換	第 26 回	研究計画を作成する
第 12 回	興味のあるテーマについて発表	第 27 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 13 回	興味のあるテーマについて発表	第 28 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 14 回	興味のあるテーマについて発表	第 29 回	施設あるいは支援現場見学まとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

**到達目標**

- ・子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていく。
- ・卒業論文作成にむけて、その過程を理解し、研究計画を作成する。
- ・研究方法について理解する。

**履修上の注意**

- ・子どもや若い世代に起きている問題やそれらに対する支援について、興味・関心を持っていること
- ・卒業論文については上記の内容や社会福祉領域でテーマを選び、取り組んでもらうことになるので、心積りをしておくこと
- ・意見交換や発表には、積極的に取り組むこと

**予習・復習**

予習・復習については随時指示する

**評価方法**

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、総合的に判断する。

**テキスト**

各自の興味・関心を集約したうえで、随時指示する。

**授業概要**

心理学を基盤として、乳児期、幼児期、児童期の子どもに関する現代社会の様々な課題に積極的に向き合う姿勢を養い、卒業論文を作成するために必要な知識、技能を身につける。そのために、発達心理学や教育心理学の基礎的文献等を用いて、発達や教育に関する心理学的な観点による調査や考察について学ぶ。具体的には、春期は、文献講読を通じて、発達心理学、教育心理学の概念を学ぶことを中心とする。秋期は、卒業論文の作成に向けて、研究テーマを検討するとともに、心理学の研究手法や分析方法について理解する。これらの活動を通じて、発達心理学、教育心理学に関する自らの興味関心を追求し、卒業論文のテーマを定め、研究計画の立案につなげる。

**授業計画**

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	発達心理学、教育心理学についての知識	第 17 回	研究関心の確認
第 3 回	発達心理学の研究の特徴	第 18 回	研究テーマの探索
第 4 回	教育心理学の研究の特徴	第 19 回	先行研究の検討①
第 5 回	文献の紹介、発表担当回の決定	第 20 回	先行研究の検討②
第 6 回	文献検索の方法	第 21 回	心理学の研究手法①
第 7 回	文献講読の方法	第 22 回	心理学の研究手法②
第 8 回	レジュメの作成方法	第 23 回	分析方法の見通し①
第 9 回	発表および質疑応答のしかた	第 24 回	分析方法の見通し②
第 10 回	文献講読実践①	第 25 回	研究計画書の作成①
第 11 回	文献講読実践②	第 26 回	研究計画書の作成②
第 12 回	文献講読実践③	第 27 回	卒業論文の構想発表①
第 13 回	文献講読実践④	第 28 回	卒業論文の構想発表②
第 14 回	文献講読実践⑤	第 29 回	卒業論文の構想発表③
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ、卒業論文に向けて

**到達目標**

- ・発達や教育に関わる諸問題を理解することができる。
- ・発達心理学および教育心理学の研究対象や研究方法を理解することができる。
- ・発達や教育に関わる問題について、自らの興味・関心を追求し、卒業論文のテーマを定めることができる。

**履修上の注意**

- ・主体的かつ粘り強く課題に取り組む姿勢を求める。
- ・グループワークや議論を行うため、他の受講生との活動に対しても積極的な姿勢を求める。
- ・他者の発表や意見を聞いたり、感想や意見を述べたりすることでお互いに学び合う姿勢を求める。
- ・このゼミでは以上を重視するため、やむを得ない理由以外での遅刻、欠席は認めない。
- ・外部施設の見学を行う場合がある。

**予習・復習**

例えば、以下の活動について授業時間外の学習が必要である。  
レポート作成、発表の準備、議論のための資料の確認など。その他、必要に応じて指示する。

**評価方法**

授業への参加態度およびグループワークへの取り組み状況（30%）、文献講読レポート（40%）、研究発表（プレゼン）（30%）

**テキスト**

ゼミ内で適宜指示する。

**授業概要**

この演習では、小学校教員を志望する学生を対象に、さまざまな学習を進めることにする。春期から秋期の前半にかけては教育時事に関する学習を進める。この分野は論作文・面接でも問われやすいので、適宜演習をはさむ。その学習が済んだ後は、履修者の状況に応じて、教職教養、専門教養（小学校全科）の中から必要な内容を扱うことにする。

4年次には卒業論文を提出してもらう必要があるが、4年春期までは小学校教員採用試験に関する内容を中心に据え、ゼミの中で本格的に卒業論文に関する作業を進めるのは4年次の秋期とする。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション（春期の進め方）	第16回	オリエンテーション（秋期の進め方）
第2回	第3次教育振興基本計画（1）	第17回	学校制度に関する答申
第3回	第3次教育振興基本計画（2）	第18回	教職員に関する答申
第4回	演習①-1	第19回	学校運営に関する答申
第5回	演習①-2	第20回	その他の重要答申
第6回	特別支援教育関係答申（1）	第21回	演習④-1
第7回	特別支援教育関係答申（2）	第22回	演習④-2
第8回	生徒指導関係調査	第23回	教職教養・専門教養に関する輪講（1）
第9回	演習②-1	第24回	教職教養・専門教養に関する輪講（2）
第10回	演習②-2	第25回	教職教養・専門教養に関する輪講（3）
第11回	2018・2019年改訂学習指導要領	第26回	教職教養・専門教養に関する輪講（4）
第12回	全国学力・学習状況調査	第27回	教職教養・専門教養に関する輪講（5）
第13回	PISA・TIMSS	第28回	教職教養・専門教養に関する輪講（6）
第14回	演習③-1	第29回	教職教養・専門教養に関する輪講（7）
第15回	演習③-2	第30回	まとめ（卒業論文に向けて）

**到達目標**

- ・小学校教員採用試験に向けた学習を通して、小学校教員に必要な資質・能力を培う。
- ・卒業論文に向けた構想を構築する。

**履修上の注意**

・卒業論文に関する作業を4年次の秋期以降に本格化させるということは、それ相応の馬力が必要である。さらに、4年秋期は、小学校の採用試験は全て終了しているが、幼稚園や保育所の就職活動のピークであることに注意すること。

- ・卒業論文に関する課題は、3年次の春休みの宿題が最初となる（テーマを考えてくるという宿題を出す）。

**予習・復習**

・適宜演習の機会は設けるが、自主的に教員採用試験問題にあたってみるとよい。論作文や面接にあっても、知識なしには太刀打ちできないという事実を肝に銘じることが何よりも重要である。

**評価方法**

- ・授業内容の理解度（50%）、輪講における成果（50%）

**テキスト**

- ・教科書名：教職教養の要点理解（2023年度版）【2022年度版を持っている者は買わなくてもよい】
- ・著者名：時事通信出版局（編）
- ・出版社名：時事通信社
- ・出版年：2021年

**授業概要**

「小学校国語科教育」をテーマに、国語の授業を実践的・理論的に学んでいく。具体的には「聞く・話す」「書く」「読む」という具体的な言語活動の追試を行い、どのような授業ができるかを試行する。さらに、複数の文献をもとに言語活動の現実を探りながら、先行研究から何が学べるかを思考する。最終的には、理論と実践をつなぐ研究姿勢を身に付けることをめざす。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス 国語「概説」	第 16 回	発展 言葉あそび
第 2 回	ことばの力 1 話す力・聞く力	第 17 回	発展 日本語の特色
第 3 回	ことばの力 2 書く力 1	第 18 回	発展 メディア・リテラシー
第 4 回	ことばの力 3 書く力 2	第 19 回	研究テーマの検討 1
第 5 回	ことばの力 4 読む力	第 20 回	研究テーマの検討 2
第 6 回	文章のいろいろ 1 説明的文章	第 21 回	研究テーマの検討 3
第 7 回	文章のいろいろ 2 文学的文章	第 22 回	研究テーマの検討 4
第 8 回	文章のいろいろ 3 言語文化	第 23 回	研究計画の検討 1
第 9 回	ことばの理解 1 表記	第 24 回	研究計画の検討 2
第 10 回	ことばの理解 2 ことばのきまり	第 25 回	研究計画の検討 3
第 11 回	ことばの理解 3 語と意味	第 26 回	研究計画の検討 4
第 12 回	ことばの力 5 音読の力	第 27 回	研究計画の発表 1
第 13 回	ことばの力 6 コミュニケーションの力	第 28 回	研究計画の発表 2
第 14 回	ことばの力 7 情報活用の力	第 29 回	研究計画の発表 3
第 15 回	ことばの力 8 論理の力	第 30 回	研究計画の発表 4

**到達目標**

小学校国語科教育に関わる内容の中から、卒業論文に向けてテーマを見つけ、研究計画を立てる。

**履修上の注意**

発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。また、順番に発表を行うので欠席しないこと。

**予習・復習**

あらかじめ授業に関係するテキストの内容や教材を読んでおく。また、自分の考えを整理して書き残しておく。

**評価方法**

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：言語活動中心国語概説：小学校教師を目指す人のために
- ・著者名：岩崎淳ほか
- ・出版社名：学文社
- ・出版年：2018年(9784762028199)

**授業概要**

本演習は、卒業論文執筆に向けて研究の作法について学ぶことを目的とする。研究や学問とは、知の共有財産（公共財）を創り出すことである。つまり、一人だけ特定の情報について知っていても意味をなさない。誰かと共有して初めて学問知となる。自らの関心に沿って学問知を創り出すために、問いを見つけ、育てる作法や調査研究の作法、ゼミのメンバーと共に議論し高めていく作法、他者を説得する作法、自らの研究行為をふりかえりさらなる課題を見出す作法等について指導する。最終的には卒業論文という独特な世界をつくっていくことになるが、その過程はむしろゼミのメンバーや研究にかかわるその他の人々との協同作業である。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	調査内容についての報告と共有①
第 2 回	教育学研究の位置づけと目的	第 17 回	調査内容についての報告と共有②
第 3 回	調査研究の特質と方法①調査とデータ	第 18 回	研究計画書の修正①問いを再設定する
第 4 回	調査研究の特質と方法②問いと方法論	第 19 回	研究計画書の修正②対象と方法の調整
第 5 回	文献報告①フィールドワーク（教材開発）1	第 20 回	研究計画書の修正③先行研究の再調査
第 6 回	文献報告②フィールドワーク（教材開発）2	第 21 回	大学図書館の活用①オンライン調査
第 7 回	研究計画書の作成①研究の問いと仮説	第 22 回	大学図書館の活用②他大学等の調査
第 8 回	文献報告③参与観察（授業研究）1	第 23 回	問いと先行研究の検討①
第 9 回	文献報告④参与観察（授業研究）2	第 24 回	問いと先行研究の検討②
第 10 回	研究計画書の作成②先行研究の調査法	第 25 回	問いと先行研究の検討③
第 11 回	文献報告⑤生活史（教師研究／歴史研究）1	第 26 回	口頭発表と質疑応答の作法
第 12 回	文献報告⑥生活史（教師研究／歴史研究）2	第 27 回	卒業論文構想の発表①
第 13 回	研究計画書の作成③研究の意義と限界	第 28 回	卒業論文構想の発表②
第 14 回	研究計画の発表と今後の課題の共有①	第 29 回	卒業論文構想の発表③
第 15 回	研究計画の発表と今後の課題の共有②	第 30 回	卒業論文執筆に向けて

**到達目標**

- ・自ら関心をもった研究テーマについて、研究計画書を作成することができる。
- ・文献購読や他者との議論を踏まえて、教育現象や社会現象に対する調査法について概観することができる。
- ・文献報告や自らの研究テーマの発表を通して、他者と対話する作法を身につける。

**履修上の注意**

他者やテキストとの対話を通じて、自己の研究関心を明らかにしていきます。一人ひとりの関心や成長が異なることを前提としながら、ゼミ全体での学びや共有する時間を大切にしていきたいと思います。なお、大学図書館や学外の施設での調査など教室外での調査の可能性も考慮に入れておいてください。

**予習・復習**

基本的には、文献報告や研究計画書に関する調査が予習および復習となります。授業外の時間や夏季・冬季の時間を中心に、日々少しずつでも調査・研究を進めていきましょう。

**評価方法**

- ・研究計画書：40%
- ・報告・発表：40%
- ・議論の作法や姿勢：20%

**テキスト**

テキストや購読文献は、初回の授業で決定していきます。なお、以下の文献を踏まえて議論していきます。  
 文献：関口靖広（2013）.『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房。  
 秋田喜代美・藤江康彦（2021）.『これからの教師研究——20の事例に見る教師研究方法論』東京図書。  
 耳塚寛明・中西啓喜（2021）.『教育を読み解くデータサイエンス——データ収集と分析の論理』ミネルヴァ書房。  
 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）.『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア。  
 やまだようこ・サトウタツヤ・能智正博他（2013）.『質的心理学ハンドブック』新曜社。